



申14号「2021年度年末手当等に関する申し入れ」提出

赤字・コロナ禍における
生活実感・労働実感と
職場の努力を踏まえ、

新型コロナウイルス感染症
対応に対する特別手当
全従業員(出向者を含む)

2.7ヶ月要求!! 一律5万円要求!!

支払いは、12月8日まで 回答は、11月17日まで

JR東労組は、新型コロナウイルス感染症拡大からまもなく2年が経過する中においても、社会インフラとしての使命を果たしています。安全を第一に安心の提供に向けた業務の遂行と変化へ対応すべく施策等についても真正面から向き合い続けています。また、組合員の雇用と利益を守る為、健全な経営基盤を構築し業績回復に向け、創造的な取り組みを積み上げてきています。そして、家族もその奮闘を支え続けています。

経済は新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にありつつも、持ち直しの動きが続いています。また、ワクチン接種が促進される中で先行きについても景気が持ち直していくことが期待されています。

JR東日本の経営状況も依然厳しい状況が続いていますが、2021年度鉄道営業収入の上半期の対前年比は121.5%となり、鉄道営業収入が前年に比べて増えていることは、コロナ禍における職場の努力の結果であることは言うまでもありません。

会社は発足以降、純資産を増やし続けコロナ禍の影響を受けているものの、未だ2兆円を超える純資産を蓄えています。これは、この間の職場の努力と奮闘により得た利益が組合員・社員に十分に還元されず、内部留保として蓄えられてきた結果とも言えます。

一方、組合員・社員の生活実感は期末手当の減により、年収も減少し確実に生活が苦しくなっています。また、今年の春闘では定期昇給を実施するも昇給係数2がカットされ将来の賃金が目減りする状態にあり、モチベーションも低下しているとの声も多くあげられていることを強く認識すべきです。

今こそ「人」への積極的な投資により、働く側の魅力とモチベーションを向上させることが必須であり、そのことが人材流出を防ぎ、会社発展の原動力に資する人材確保にも繋がると考えます。

したがって、今年度夏季手当交渉における「緊急再申し入れ」交渉の議論も踏まえ、「生活実感」「労働実感」を真摯に受け止め、組合員・社員と家族の生活確保とモチベーション維持・向上を実現させるため、要求満額回答を強く求め、団体交渉を行っていきます。

2021年10月

会社は、組合員・社員の努力を認め
「生活実感」「労働実感」に報いるべきだ!
JR東労組への結集を呼びかけ、団結を強化し
年末手当要求満額回答を勝ち取ろう!

要求

- 基準内賃金の2.7ヶ月
- 新型コロナウイルス感染症対応に対する特別手当5万円

支払いは12月8日まで 回答は11月17日まで

JR東労組の「要求根拠」と「たたかい」について

重要! 要求根拠①【生活実感】

私たちの収入は、期末手当の減により、年収が10%程度減少し、確実に生活が苦しくなっています。また、定期昇給を実施するも係数2がカットされ将来の賃金が目減りしている状態です。組合員にアンケートを行った職場の報告では期末手当の使い道について「生活費70.6%」「ローンの支払い47.1%」という結果が出ており、期末手当は組合員の生活にとって欠かせないものとなっています。また、何ヶ月必要かというアンケートでは組合員平均2.7ヶ月という結果も出ています。会社は、組合員・社員の生活実態に応えるために、2.7ヶ月の満額回答をするべきです。

また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、生活面においても業務に支障がないように感染防止対策に費用がかかっています。その感染防止対策は安全・安定輸送のためであり、業務に資する行為であるからこそ、特別手当の支給を求めています。

重要! 要求根拠②【労働実感】

JR東日本『2021年度 鉄道営業収入 対前年比の推移』では、第1四半期の対前年比は150.8%、第2四半期の対前年比は102.3%、上半期は121.5%となっています。鉄道営業収入が前年に比べて増えている以上、対前年の年末手当以上の要求満額回答で職場の貢献に応えるべきです。

東日本旅客鉄道労働組合(JR東労組)

◀ 本部討議資料を読み合わせよう! ▶

職場からのたたかいで、要求満額獲得を勝ち取ろう!